

586

特255

836

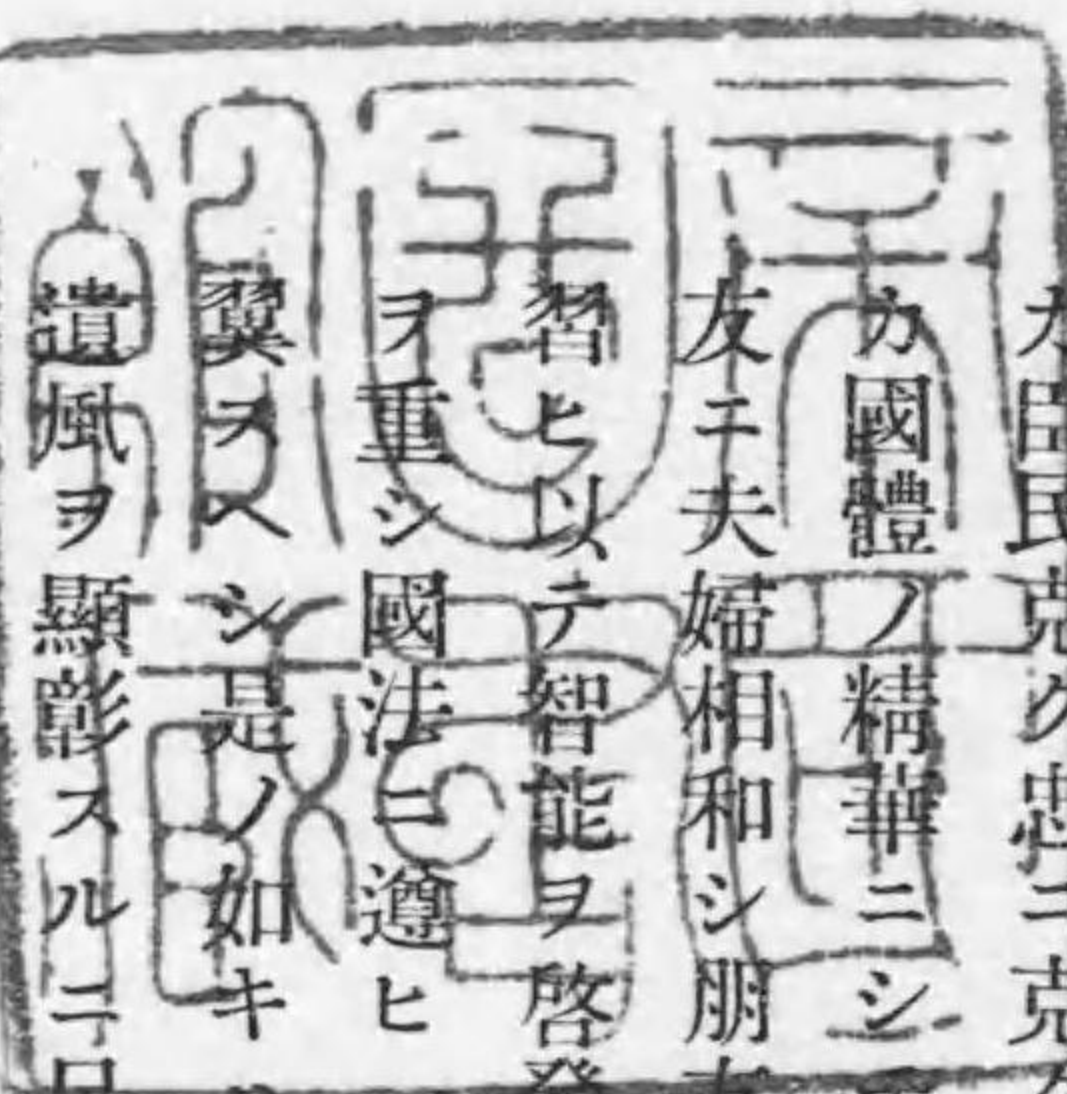
教育勅語の徹底と  
儒教の精神



始



勅語



朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ且緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン



斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其ノ德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ



## 自序

著者は淺學非才にして何等の成功無く世に盡すことなど到底及びも無いが責めて大過に陥らぬ様と考へて居る際偶々知り合になつたのは山本雅聲先生である先生は温厚篤實の君子にして夙に孔孟の學を修めて其の蘊奥を極め兼て書道に通じ識見高邁其の説かるゝ所徒らに文章辭句の末に奔らず其の道の本源を窮めて之れを現代の情勢に照らされ上 皇室の尊崇は勿論凡そ政治教育を初めとして軍事經濟より日常の俗事に至るまで悉く其の依る所を明かにせられ而かも只其の外形に止らず能く其の内容を洞察し一善と雖も苟も賞せず一惡と雖も苟も貶せず何人にも得心の行く様又其の相手方は貴賤男女を問はず公平至正親切丁寧を盡される故一たび先生の温雅な風手に接して感激せざる者無く國體明徴を叫ぶ今日

に於て眞に尊き學者である偶近時思想混亂道義頽廢の際先生深く國家の前途を憂へ之れを救ふは日本精神高揚の外無く其の方法としては教育勅語を徹底せしめ且之れを謹解するには儒教の精神を以てするのが最も適當とせられ尙ほ昔から忠孝道德を教ふる儒者多く又近來諸學者の著書も澤山あるが大抵は机上の論で實行の上から説く人は稀である之れでも風教上裨益する所無きにあらざるも元來實行の教であるから只知つて居るだけでは徹底を缺ぎ而も近來國體明徴の聲の高い時には特に實行が大切で既に實行さへあればそれが直ちに國體を重んじて居る證左で其の又實行といふのは我々日常俗事の外に何物も無いと云ふ主義の下に教育勅語を基礎とした儒教に關する一書を著して世に警醒せんと思はれたるも日々授業講演に忙しく遷延して居るので余は其の高著の速かに出でんことを切望するのである又是れまで儒教を以て文明社會に通用せぬ教である

と誤解せし人も多かつた處近來國體明徴の聲と共に儒教の眞價を認められ之れを學ばんとする者多き状態であるから余は不敏を顧みず先生の高著に先だち從來一般の誤解を釋明し併せて儒教の概念を示し置く必要があると考へたから茲に先生の講述せられた一端を略述し聊か先生の前驅をした次第である隨て説く所簡略にして而かも引例行文の卑近なのは余が素養の乏しきは勿論なるも一は儒教初心の人に分り易く其の手引を仕たに過ぎないから若し此の書が媒介となり一人にても同好の士が出來ましたならば國家の爲は勿論著者の欣快之れに過ぎざる次第であります

目次

一	教育勅語の尊重	一
二	教育勅語徹底の方法	三
三	勅語の御精神と儒教とは同一なり	四
四	儒教は祖先崇拜主義なり	一一
五	儒教は經世濟民の學問なり	一一
六	儒教の政治は王道を以てし徳を貴び法を賤しむ	一四
七	儒教は五常五倫を以て教の基本となす	一七
八	儒教は忠孝を貴び孝を以て百行の本となす	二六
九	儒教は君子を貴び小人を賤しむ	三三
十	儒教は知行合一なり	三六
十一	儒教は近きより遠きに及ぼす	三九

十二	儒教は壓制的のものにあらず	四
十三	儒教は禮を重んじ謙讓を貴ぶ	四
十四	儒教は進歩的にして退嬰的にあらず	四
十五	儒教は包容力大にして人種の偏見なし	五
十六	儒教は文武の雙全を希望す	五
十七	儒教は愉快なるものにして窮屈なるものにあらず	五
十八	儒教は正當なる富貴を望む	六
十九	結論	六

### 教育勅語の徹底と儒教の精神

松石山人述

#### 一 教育勅語の尊重

凡そ日本國民としては教育勅語を尊重して日々の言行悉く其の御趣旨に協ふ様努力すべきは勿論であるされば學校で舉式の時事前に之を拜讀して參列者に聽かせるのは此の御趣旨を能く頭の中へ入れて置けよといふ訓示で又此の勅語は國民全體に賜はつたものであるから苟も日本國民たるものは男女老若に拘はらず皆之れを遵奉せねばならぬのは勿論であるに拘はらず多くの中には其の御文面も知らず其の御精神も十分に心得ずして勅語拜讀といふことは只 皇室に對し奉り尊崇の念を表顯する一

の形式であつて拜讀さへすればそれで臣民の一分が立つて居る様に考へて居る人を見受けるのは誠に遺憾の次第である

元來此の勅語は國民日常の言行に對し規範を垂れさせられたのであるから國民としては之れを實行して始めて 聖慮に協ふのであつて只口先き斗りでは役に立たず又此の尊き大御心に背くことになる目下我國は經濟上思想上又外交上多大の困難に遭遇し又一般風俗の頹廢等數へ來れば中々心配が多い如此状態になつた其の原因多々あらんも其の主たるものは即ち誤まつた歐米崇拜に起因する國民の放縱自姿であつて全く國粹を忘却して居つた爲であるが斯様になるのも常に教育勅語の御趣旨を徹底的に承知して居らないからで此の儘の状態で進むときは國家の前途大に心配に堪へない次第である幸近時國體明徴の聲が高いのは結構であるが偕其の方法に就ては結局國民全體に勅語の御趣旨を普及徹底さすのが唯

一の方法であるから今後官民一致之れに全力を注がねばならぬ

## 二 教育勅語徹底の方法

國體明徴といふことは文章に書き顯はすことでも無く又形に顯はすことも出来ない只國民が國體を尊重して居る其の心を指して國體明徴といふので其の國體の尊重は全く國民の本分であるが只口で尊重を唱へるだけでは頼りない是非共國民精神の作興を要し國民精神さへ作興すればそれが即ち國體を尊重して居る證據であるから今の處何を措いても此の作興の方法が第一である又其の方法に付いては國民生活の安定など無論必要なるも之れと共に教育勅語を徹底せしめ日常の行爲に不都合なからしむるは最も大切なことであるから將來は此の勅語も單に拜讀斗りでなく其の内容を諒解する様可成平易に謹講することと尙ほ之れを學校而已に

止めず官衙會社工場等人の集まる處では時々謹講會を催し廣く一般に行き渉らせる必要がある然るに此の勅語の御字句は能く我が國體に吻合し我が國教とも申すべき儒教より御採用遊ばされた様に拜察し奉るのであるから此の謹講には儒教の精神を以て敷衍するのが一番分り易く且適當なことゝ信ずるのである然らば其の儒教とは如何なるものか之れは次項以下に於て説くことゝする

### 三 勅語の御精神と儒教とは同一なり

教育勅語を謹解するに儒教を以てするのが當を得て分り易いことは前項に述べた然らば儒教とは如何なるものであるかといふことは以下各條説くところに依り明らかであるが茲に先以て儒教誤解の主因たる古いといふこと并に支那の産であるといふこと此の二ツに就て一應辯明して置く

第一此の古いといふことは儒教斗りでない即ち孔子の生れたのは紀元百十年 緩靖天皇三十一年で昭和十二年を距ること二千四百八十七年になる又釋迦の生れは紀元三十八年 神武天皇三十八年で今を距ること二千五百五十九年になるから孔子より古い然らば耶蘇は如何といふに降誕千九百三十七年になるから之れも古い而して此の勅語も

明治天皇の御新作ではなく國體の精華を御述べになつたもので

斯ノ道ハ實ニ我が 皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ

と仰せられるのを拜察すると億萬年の遠き昔より傳はつた道を御述べになつたもので又之れを後世より見れば今よりも更に古いことになる孔子も論語の中に

述ベテ作ラズ

即ち堯舜以降古來傳はれる道其の儘であつて自分の作つたもので無いと



言はれた之れも勅語に次で古いのである又民権といふことは我々明治以後になつて耳にしたこととて新しい様であるが之れも西洋の歴史を見ると遠い希臘の時代に始まつたので矢張り古い若し古いから悪いといふのなら此の民権思想も捨てねばならぬ斯様に考へると古いといふことは全然理屈に合はぬことゝなる次に支那の様な秩序の無い國の産物だから悪いといふ者がある果して然らば印度は釋迦時代は勿論今でも『カスト』と稱する四種族の差別が非常に甚しく最下級の奴隸の如きは實に悲惨極まるもので又經文の記する所によれば釋迦時代までに父王を殺して自立した王が一萬八千人あり又佛教弘隆で名高い功勞者たる阿育王の如きは其の兄弟九十八人を殺して暴逆の有りたけを盡したと云ふ様な國柄で今尙英國の屬國となつて居るから國情の上から取捨するとなれば佛教の方が遙かに悪い又基督教は發生の時から餘り立派な國で無かつた猶太の産で

其の猶太も今日は亡國となり其の國人の性情も賤しまれて居るから之れも悪いと謂はねばならぬ斯様に考へると産出國の説も根據の無い俗に喰はず嫌ひ未だ眞味を知らぬ人か若くば儒教の教理が他の教に比し餘りに整然として一點の批難の打ち所が無いのに怖氣を生じ自己の放縱を維持せんとする卑屈人間の牽強附會説と謂はざるを得ない

抑儒教の我が國に傳はつたのは紀元九百四十五年 應神天皇十六年にして今を距ること一千六百五十二年百濟國の王仁といふ人が來朝して論語及千字文を獻じた此の時は我國に文字も無く其の説く所が如何にも立派なから先以て 皇室并に宮中上位の方々之れを研究せられたので其の反響は著しく彼の歴史にある 皇長子大鷦鷯尊と御弟君と皇位を推讓せられたといふ畏多き御事があつた之れも畢竟儒教の精神に基き兄皇子は父天皇の御意を尊重せられ弟皇子は兄皇子に對し友悌の道を盡され

た實に國民思想上貴い御教訓である然らば如此孝悌の道が我日本に無かつた所へ儒教が來て始めて成程ソウかと御悟りになつたかと申せば決して左様で無い即ち前に申す如く 皇祖皇宗の御遺訓として神代から傳はつたものであつて儒教の説く仁義禮智とか忠孝の道は皆我が國にあつた而已ならず神ながらの道として自然に且圓滿に行はれて居たけれども未だ文字も無く隨て書物も無く之を理論的に且秩序的に闡明するといふことは無かつた所へ王仁の渡來に依り始めて儒教の眞髓を知り之を一々我が國情に當てはめることが出來たから忽ち融合同化し以て鞏固に之れを國民精神の中に植付けられ尙其の上に多年多くの學者が之れを敷衍且研鑽して益々其の精粹を醇厚ならしめたものである然らば本家本元の支那は如何といふに日本とは大分國民性が違ふて居る特に周の末に至りては文化の隆盛に連れ人は益々功利に奔り下を以て上を凌ぎて互に覇を争ひ

互讓の精神は地を拂ひ鬭争に日も亦足らず殆んど收拾すべからざる状態となつたから孔子が之れを慨かれ古來聖人の嘉言善行を抽集して諸生を教導せられた其の遺蹟が論語である此の時に當り若し支那人が一般に道徳を重んじて居たら孔子も苦んで如此説を立つる必要も無く只一の賢者として世に知られたに止まつたであらう夫れを勞苦を厭はず世の潮流に逆行して東奔西走道の實行に盡力せられたと云ふのは畢竟國民に道徳精神が乏しかつた反動として起つたものと謂はねばならぬ之れに反して我日本では幸に古來の道徳精神が國民の間に充ちてゐたから別に道徳の研究などいふ必要が起らなかつたのである故に其の發生が支那であつても其の教理が能く我惟神の道と吻合し且我國に於て成長醇化した上は之れを日本の學說日本の國教と稱するも敢て不可は無いのである  
儒教が勅語の御精神に一致するのは勿論其の御用語も同様なことが澤山

ある今其の中の數例を申せば

國ヲ肇ムルコト宏遠ニ

は書經に『肇十有二州』に

國體の淵源

は漢書に『儒林之官四海淵源宜皆明於古今溫古知新通達國體故謂之博士』に

咸ナ其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

は書經に殷の國の大臣であつた伊尹といふ賢者が老齡の故を以て退職する時太甲といふ天子に訓誡の爲め呈したる咸有一德に

拳々服膺

は中庸に『子曰回之爲人也擇乎中庸得一善則拳々服膺而弗失之矣』に同じく又拳々は奉持の貌服膺は心胸に著け置くべきものである

#### 四 儒教は祖先崇拜主義なり

我が國は祖先崇拜の國風で伊勢には 皇祖を奉祀し各家には先祖の祭りを行ふが儒教にも曾子が

終リヲ慎ミ遠キヲ追ヘバ民ノ徳厚キニ歸ス

といはれた此の終りを慎みといふのは人が死んだ時其の喪禮をすることと又遠きを追ふとは年を経ても其の祭りを廢絶しないことと恐れ多くも朝廷に於て其の範を垂れさせられる御事は儒教の説く所と少しも違はぬ誠に有り難い御事である

#### 五 儒教は經世濟民の學問なり

儒教は君主を崇敬し國家社會を安泰ならしむる經世濟民の教である此の

經濟といふことは政治と教育の全般を總稱し來つたので今日の如き理財の事のみを經濟と稱する様な狭い範圍のものでは無い論語に齊の景公が政を孔子に問ふた時孔子は

君君タリ臣臣タリ父父タリ子子タリ

即ち君臣父子の相和する状態が善政の極致であると答へた時景公は大に感心して

善イ哉信ニ如シ君君タラズ臣臣タラズ父父タラズ子子タラザレハ粟有リト雖モ吾レ豈ニ得テ諸レヲ食ハンヤ

それは結構なことじや若シ君臣父子の和樂が無かつたら國の亂れることは必然であるから米があるも食ふことが出来ないといはれた此の如き例は澤山あるが苟も一國を安泰ならしむるには之れが構成分子たる國民それ／＼の生活を安定し智徳を完美せざれば其の目的を達することが出来

ないから政治の出發點としては先以て上下個人の修養より初めねばならぬことは孝經にも

天ノ明ニ則リ地ノ利ニ因リ以テ天下ニ訓フ是ヲ以テ其教ハ肅ナラズシテ成リ其政ハ嚴ナラズシテ治ル

とある如く其の根本養成の必要を説かれてある儒教は斯かる遠大且高尚な教であるから人生萬事の基礎となるべき精神の修養を専らとするのみならず更に外形上の教として『禮樂射御書數』の六藝を教へたのである尤も此の六藝は時勢に順應した科目であるから世の進歩に伴ひ變更増減すべきは勿論で時と共に推移する進歩的の儒教の精神から云へば今日の時代に理化學や英語を教へるのも儒教の一端と申すべきである

## 六 儒教の政治は王道を以てし徳を貴び 法を賤しむ

凡そ一國の政治には王道と霸道とある王道とは王様があるからいふのではなく徳を以て國を治め國民をして其の政治に心服せしめ上下相和して國を盛んにする方法を王道即ち王として行ふべき道といふのである隨て王様があつても王道の無い國もあり又共和政治の國でも總ての事が之れに的中すれば王道政治といふても差支へない又霸道とは力を以て民に臨み表面さへ平靜を保つて居れば満足する主義である昔から我日本の皇室には無論此の王道であらせられる君民一體の國柄で義は君臣と稱して居ても其の情は父子の様なものであるから初から王道が良いか霸道が悪いかを考へられたのではない只何となく自然に王道が行はれた之れが

我が國の尊い所である頼朝以降の覇府と雖も努めて王道の趣旨に近からん様に心掛けて居つたから同じ霸道でも外國の様な弊害は全然無かつたのである

之れに反して西洋諸國は皆制服者と被制服者との對立で心の和合といふことが無く常に不平を抱いて居る國民を統御するには是非共力を以てせねばならぬから道德的溫情少く常に法律萬能主義で節制する必要がある我が國に於ては明治以後西洋の制度に倣ひ法律が完備したけれど本來申せば法律を以て國を治めるのは實に萬已むを得ざる手段であつて絶對の良策では無い故に孔子も

之レヲ道クニ政ヲ以テシ之レヲ齊フルニ刑ヲ以テスレバ民免レテ耻  
無シ之レヲ道クニ徳ヲ以テシ之レヲ齊フルニ禮ヲ以テスレハ耻アツ  
テ且格シ

といはれた即ち法律萬能となつて法律が善惡の標準となるといふと法律に觸れさへ仕なければ清淨無垢の人といふ觀念を起すから實際は惡事を仕ながら刑罰を免れること斗りを研究して眞の耻を知らぬ様になる之れに反して道徳を主として國民を導く様にすれば縱令無罪放免になつても既に一旦嫌疑を受けただけでも世間に對して耻かしく反省謹慎して一般の者は次第に善行に遷り自然惡人が減る様になる斯く世の中を清く且安寧にするのが眞正の政治であつて徳と禮とは善政の根本刑と政とは末である其の末を恃みとせず何處までも其の本を求めねばならぬといふのが王道である尙此の王道といふものは啻に國政ばかりで無く官衙でも會社でも苟も人を使用する所では此の道を應用し徳を以て部下を統御すべきは勿論である

## 七 儒教は五常五倫を以て教の基本となす

人間此の世に在る上は一人單獨の生活は出來ない必ず人と協同生活の必要があるから其の間平和を圖らねばならぬ其の方法を説くのが五常五倫である即ち五常とは一般の人に對する仁義禮智信で五倫は特種の人に對する五常の應用である先づ五常より説かんに此常といふ字は和訓「ツネ」といふて盛衰増減の無い無窮に變らぬといふ文字である儒學を又一に經學ともいふ此の經の字も亦「ツネ」と訓む之れは織物の縦絲のことで横絲の方は一本一本變る又時として染色も變るけれど縦絲に限りて終始一貫て變化が無い之れが即ち儒教の精神に一致する此の國家社會の狀態は文化の程度に依り日進月歩生々として變化あるも天地の大道に至りては決して變らず之れが恰も縦絲に同じき所から之れを經學と稱し其の經な

り常なりの道が此の仁義禮智信である故に人たる者は老幼男女貴賤貧富を問はず又時と場合とに拘らず皆之れを守らねばならぬ今教育勅語と儒教とに依り解すれば『仁』は和訓『ヒト』即ち人が二人居る貌である故に此の仁は人々相輔けて行かねばならぬ自分單獨は許さない偕此の仁の字義は廣大無邊のもので一言では盡されないが孔子は個人教育の點から色々に説かれ子張への答には

恭寛信敏惠ノ五者ヲ行フヲ仁ト爲ス

と曰はれた即ち人として恭敬の徳を備へて居れば他を侮らぬ(恭)寛大の徳があれば人心悦服する(寛)言行一致し信用があれば他から頼みとせられる(信)穎敏であれば事功を擧ぐる事が出来る(敏)他人を惠む心があれば人を使ふことが出来る(惠)と教へられた此の外に『己れに克ちて禮に復へる』とか『仁者は諍かなり』とか『博く衆を愛して仁

に親しむ』とか申され畏くも我が 皇室に於かせられては御諱に仁の字を御附け遊ばされるのは全く仁の御徳を御備へ遊ばされるためと拜察する仁は義禮智信の四ツを併せたる總稱ともなり又仁丈けの場合もある素より 皇室の御徳は五常を兼ねた大なる仁であらせられるが勅語に

博愛衆ニ及ボシ

と仰せられるのは五常の一たる仁の顯はれである又『義』は宣なり和訓『よし』といひ事物を制裁して其の宣しきに合せしむることと韓退之は博ク愛スル之レヲ仁ト謂ヒ行フテ之レヲ宣シフスル之レヲ義ト謂フと申された如く仁も禮も智も信も皆義の應用によりて適當に案配されるもので人間日常の言行には最も必要なものである勅語にも

一旦緩急有ラバ義勇公ニ奉ジ

と仰せられる『又』禮は人の履み行ふべき外形上の秩序品節であつて人

と人との接際上無ければならぬ若し禮が無ければ人界が獸界と化するさりとて禮に過ぐれば固くなり親密を缺くから其の間に和といふことが必要で此の和とは只相手方に阿ねる様な卑しきことでなく心を正しく博愛の精神があれば其の顔色は自然に和ぐ様になる故に勅語にも

恭儉己を持し

と仰せられる又『智』は勅語に

智能ヲ啓發シ

と仰せられ我々は刻苦勉勵して共に文化の昂上に盡すべきもので儒教にも治國平天下の根本は修身齊家で修身齊家の根本は誠意正心格物致知と説かれてある又『信』は正心誠意を以て世間の信用を得以て國家社會に盡すことで勅語にも

公益ヲ廣メ世務ヲ開キ

と仰せられるのは即ち自己の所信を實行することである尙ほ上に申した如く此の五常たる仁義禮智信を併せた所が仁であり五ツを別々にすれば夫々意味があるけれど之れが實行に當りては單獨の實行は出来ない必ず他の四常が關係して居る今試みに極めて卑近なことで例を取れば茲に一人の乞食あり餓て死に垂んとして居る夫れを救ふ心は仁である如何なる方法で救ふべきかは智である其の救ふ程度を決定調節するのは義であるサリトテ之れに對し犬猫に與へる如く抛げ棄てる様にしたら如何に死に瀕して居ても彼は其の無禮を怒り喰はずに抛げ返すに違ひない之れは昔から嗟來の食といふて深く戒めてある夫れでは折角仁と義と智とを提供しながら反對の結果を來たすから此の如き時は必ず禮を以てせねばならぬ尤も乞食に對し頭を下げてお辭儀をするのでは無いけれど相當同情の心を以て物やさしくする之れが禮である又如何に表面の仁義禮智が整ふ



て居ても内心深く彼れを憐れむといふ心の心が立たなければ只表面偽善を衒ふた形式の仁に墮して仕舞ふ此の如く其の根本は仁であつても他の四常が手傳ふて始めて其の仁を完ふするのである

偕又前の五常を實行するに當りては人と人との關係に於て其の取扱に調節を要する先づ君臣の間には之れを義といひ父子の間には之れを親といひ夫婦の間には之れを別といひ長幼の間には之れを序といひ朋友の間には之れを信といふ之れが則五倫である之れを畧説すると先づ第一に君臣の間の親しいのは結構なるも只單に親しいだけでは往々尊嚴を冒瀆することゝなり又實際六ヶ敷いことではあるが恐多くも

雄略天皇の詔勅にも亦最近 大正天皇の詔勅にも

義ハ君臣ニシテ情ハ父子

と仰せられ即ち君臣の間は義であるけれども大御心は父子の情を以て御愛

憐遊ばされるといふ御事は有り難い仰である又父子の間は自然の親みはあるけれど更に愛と敬との誠を盡さねばならぬ此の父子の情といふことに就いて支那の一話がある昔楚の國葉縣の尹たりし沈諸梁といふ人自ら僭して葉公と稱して居た或る時孔子に向て

吾ガ黨ニ直躬トイフ者アリ其ノ父羊ヲ攘ム而シテ子之レヲ證ス

即ち父が羊を盗んだといふて訴へて出た正直な子があるといふて如何にも善行である如く褒めたから孔子は直ちに答へた

吾ガ黨ノ直キモノハ是レニ異ナリ父ハ子ノ爲ニ隱シ子ハ父ノ爲ニ隱

ス直キコト其ノ中ニ在リ

私の志を同ふする者はそれと大變違ひます私の方では父は子の爲を思ひ子は父の爲を思ひ父子互に隠し合ひます之れは天理人情であつて別に直きを求めずとも眞正の直は其の中に含まれて居るといふことである次に

夫婦の間は兎角馴れ易く我儘になつては一家の平和を保ち幸福を増進し難いから互に心の分界を設けること次に年長者は夫れだけ経験に富み世に盡したから之れを敬し特に老人をいたはり若い者同士でも年長者を重んずるのは一の禮であり世を平和にする道である兄弟の間では之れを友悌と稱して居るが全く同じ道理である次に朋友同士之れは元來他人で生れつきの親しみが無いから互に正直な心を持ち信用を第一とせねばならぬ尤も此の朋友の二字は廣く世人一般と解すべきは無論で普通人斗りてなく爲政者としても國民の信を得ることの必要なるは子夏が食と信と兩つの中で是非共其の一つを去らねばならぬ場合には政府の信用を失ふても國民に食を與へれば宣しいか又は食は不十分でも信を失ふてはなりませんかと問ふた時孔子が

食ヲ去ラン古ヨリ皆死有リ民信無ケレバ立タズ

と答へられた即ち國民は食無ければ死することは必然であるけれど若し國家に信が無かつたら國民一日も安樂に生活が出来ない結局社會は紊亂して收拾すべからざることになるソウなれば寧ろ死んだ方が氣安い譯で斯様なことは滅多に無いけれど信といふことは之れ程大切なものであるから平生より心得置かねばならぬ又此の五常と五倫とは人として心得置く斗りでなく其の實行に努めねばならぬ極めて肝要なことで勅語に

爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信ジ

と仰せられる此の御趣旨は前述儒教の解により明らかであるが五倫中の君臣の道を御述べにならぬのは此の四倫さへ完全なれば決して不都合は仕無いものとして國民を御信賴遊ばされるからの御事で誠に恐多い有難き次第と申さねばならぬ又此の御趣旨は我が國斗りで無く更に

中外ニ施シテ悖ラズ

と仰られ西洋人に對しては三常で宜しいとか六常を要するとかいふ譯のものでは無い今假りに儒教が古いから役に立たぬと云ふて全然之れを棄て更に人間行爲の規則を作らんとすれば縦令仁義禮智信といふ名は無くとも其の種類と實質に於ては之れ以上にも出來ず又之れ以下にも出來ず五倫も同様外に變へ様が無い果して然らば何も苦しんで新名を作らずとも在來の儘で良いといふ結論に到達するのである

## 八 儒教は忠孝を貴び孝を以て百行の

本となす

儒教の最後の目的とする所は治國平天下であるから其の源泉たる君主に對し忠誠を致すべきは當然で古文孝經の孔安國の序に

君君タラズト雖モ臣以テ臣タラザルベカラズ

とある如く君主の絶對權に服従すべきは明らかで之れを國民の本分としてあるから今更説明の必要が無いけれども其の國民をして君に忠ならしめる様に今一つ換言すれば眞正の國民たる資格を具備さす様人間陶冶教育の上から申す時は孝を以て百行の本と稱し孝から出發せねばならぬ然るに近來異説を唱へる者があつて孝を以て本とするのは支那のことと國體の異なる日本では忠を以て本とするといふ人があるのは謬見であつて遺憾に堪へない之れは風教道德の基礎であるから極めて重大なことである

論者の如く成る程君主の尊嚴は大にして特に我が國體の上より忠の貴ぶべきは勿論で孝を犠牲にしても忠に於て完ければ立派な日本人として賞揚せられるのは分り切つたことであるが之れは忠と孝とを並べて其の輕重を比較した時の話であつて人間の心理を捕捉したる教育上修養上の順

序としては必ず孝を本とせねばならぬ少し議論に涉るけれども研究の順序として述べんに忠本主義の人の説には大抵此『本』といふ字と『末』といふ字に拘泥して『本』は貴いもの『末』は賤しいものと單純に解して居る尤も之は國體觀念の上から云ふときは忠本主義には違ひないけれども儒教に於ける孝本は國體の上でなく修養教育の順序から云ふのであつて忠本論者は國體觀念と修養教育とを混同して居る之が大なる間違である又文字の上からしても本であるから必ず貴い末であるから必ず賤しいといふ道理は決して無い畢竟論者は末といふ字を魚の尾の切れ端とか反物の不用な末端とても聯想してのことて末の字を極狭く解釋するからのことである古歌に

末。つひに海と成るべき谷川も暫し木の葉の下潜るなり

の如き此の末の海と其の本源たる細き谷川の水と孰れが貴いか此の歌の

精神より申せば大海の水は人間ならば大成功で末なれども貴いが谷川の水は本でも貧弱では無いか易經にも生々之れを易といふとあつて此の世界は日々進歩しつゝあるもので此の末の如きは大目的の到達點ともいふべき芽出度き結果である彼の一世の英雄豊臣秀吉も草履取りの本よりも關白の末が貴い茲に今一ツ適切なる譬へを述べんに我々が菊を培養するは何の目的であるか即ち立派な花を咲かす爲めである然し花は目的ではあるが本では無い本は根の方で之れを根。本とも云ひ花は莖末に咲く即ち末であるそこで其の末であり目的である花の爲には先以て根本の土壤を精選し肥料水分を適度に施す其の骨析が顯はれて始めて美花が得られる何程花が目的で大切でも花へ肥料を施せば忽ち枯死する是非共其の根本から養成せねばならぬ其の位根本は大切である然し茲に話頭を轉じて根株と花とを別々に切り離して二ツ並べて見る時には花は珍重するけれど

根は捨て、仕舞ふ様なもので本は根本の出発點末は結末の大目的と解する時は孝を百行の本とし忠を結末の目的として少しも不都合が無い斗りでなく人幼にして親の撫育を受け其の恩を知り能く父母に孝なるときは其の孝の心を推し進めて君には忠を盡し人には親切に國の爲にも社會の爲にも盡す様になるので孝を知らぬ者は眞の忠を知らない忠臣は必ず孝子の門から出る孔子の弟子の子夏が

其ノ人ト爲リヤ孝弟ニシテ上ヲ犯スコトヲ好ム者ハ鮮シ上ヲ犯スコトヲ好マズシテ亂ヲ作スコトヲ好ム者ハ未ダ之レ有ラザルナリ君子ハ本ヲ務ム本立チテ道生ス孝弟ハ其レ仁ヲ爲スノ本力

と曰ふて居る故に一旦至孝純良なる國民となつた曉には平常家に居て父母を慰め家業に精勵する其のことが大なる忠君行爲であつて一旦緩急ある場合は義勇公に奉じ假へば戰時に出征して大功を顯すなどは大なる孝

行と謂はねばならぬ茲に到りて忠孝全く一本で忠は即ち孝となり孝は即ち忠となる支那の孝經といふ本は名は孝經でも只孝行斗りを説いたものでなく人間終局の目的は忠にあることを明らかにして書中に孔子も

身體髮膚之レヲ父母ニ受ク敢テ毀傷セザルハ孝ノ始也身ヲ立テ道ヲ行ヒ名ヲ後世ニ揚ゲ以テ父母ヲ顯スハ孝ノ終ナリ

と曰はれた如く昔は君に仕へることを立身としてゐたから君に仕へて忠を盡し名譽を輝かすことは還元して孝となるのである

又古來朝廷並に諸侯より忠義を賞せられたことは度々であるが教育的に獎勵せられたことは極少ない之れに反して孝行を獎勵せられたことは數限りも無く澤山あつた一寸考へると孝よりも忠の方こそ特に必要な様に思へるけれど實際はソウで無く孝心の薄い者は至誠の心に乏しいから眞の忠を知らないので前述菊花栽培の例の如く目的を達せんとするには

先以て其の根本を養ふ様に孝を奨励せられたのである我が國に於て佛教の全盛時代と稱せられた奈良朝の時度さへ佛教では孝行の奨励が出来ないから儒教を尊重せられて國民全體に孝行を奨励せられたことは今より一千百八十年前 孝謙天皇天平寶字元年詔して天下をして家毎に孝經一本を藏せしめられたことは國史に載せられ明らかな事實である今日に於て學校教育並に社會教育共忠君の奨励は中々行届いて居るけれど其の根本を養ふべき大切な孝行の奨励が足りない感じのするは甚だ遺憾の次第である

### 九 儒教は君子を貴び小人を賤しむ

儒教に於ける人格陶冶の目的は人間悉くを君子にしたいのが理想である之れは實際上困難なことではあるが此の理想に向て進む時は縦令君子と

なることが出来ないでも比較的善人を多く造ることゝなる此の君子の反對に小人といふもの之れは悪いものである先づ君子より説かんに此の君子には儒教で二種類になつて居る其の一つは前に述べた五常と五倫を完全に行ふ人と云へば分り易い尤も其の當人が老若貴賤に拘はらず條件に適合さへすれば何人を問はず君子として尊重するのであるから我が國としては教育勅語を體得せる人と解して宜しい又他の一つは高位高官の人（現代なれば富豪も其の中に入れて可ならむ）を指すのである尤も高位高官の人だから必ず五常五倫を辨へて之れを實行するとは限らぬ否寧ろ常人より缺點の大なる人が無いことは無い然し苟も高位高官に在る人なれば必ず君子の道を実行する人又實行を要する人と推定の下に之れを君子と稱する場合がある之れは階級を貴ぶ上から職務地位に對し斯る推定をするのは儒教の主義として決して誤つては居らぬけれど之れは只一

應の推定であつて其の人の行が悪ければ之れを小人として批難するのは少しも差支が無い又儒教の精神を今日に應用するとなれば恒産有る者は恒心有り衣食足りて禮節を知るといふから財を有する富豪も之れを君子と推定して可然ことと思ふ

此の君子といふことに就ては孔子が弟子の性行とか其の問ひの詞に對して時々色々に説いて居られ一言で盡すことは出来ないが其の内の二三を擧げて見ると司馬牛が問ふた時に

君子ハ憂ヘズ懼レズ

と曰はれた餘り簡單であるから司馬牛が重ねて然らば只心配もせず恐れもせなんだらそれで君子といふのですかと問返した所孔子が

内省ミテ疚シカラザレバ夫レ何ヲカ憂ヘ何ヲカ懼レン

即ち君子といふ者は五常五倫を守り言行全く天地の道に合して居るから

自己の心中を省みても少しも疚ましいことが無い隨て憂へたり懼れたりする筈が無いと答へられた之れは當然のことである又

君子ハ器ナラズ

即ち君子は心大にして何事にも通ずる徳を備へて居る如何に一藝に秀でゝ居ても他に應用の出來ぬといふ器物に均しき小人物では無い又

君子ノ天下ニ於ケルヤ適モ無ク莫モ無ク義之レト與ニ比ス

即ち君子は如何なることでも好き嫌いをしたり偏頗なことは仕無い總て義に合ふて居りさへすれば夫れに親しむのであると曰はれ又君子たらんことを志す修養の道としては

君子ニ三戒アリ少キ時血氣未ダ定マラズ之レヲ戒ムルハ色ニ在リ其ノ壯ナルニ及ビテヤ血氣方サニ剛ナリ之レヲ戒ムルハ闘ニ在リ其ノ老ニ及ヒテヤ血氣既ニ衰フ之レヲ戒ムルハ得ニ在リ

と曰ふて其の生涯を戒められ又九思といふて

視ハ明ヲ思ヒ聽ハ聰ヲ思ヒ色ハ濫ヲ思ヒ貌ハ恭ヲ思ヒ言ハ忠ヲ思ヒ  
事ハ敬ヲ思ヒ疑ハ問ヲ思ヒ忿ハ難ヲ思ヒ得ヲ見テハ義ヲ思フ  
と細心の注意を與へられて居る

又小人なるものは君子とは全然反對の者で恰も晝夜の相違がある之れは  
君子の解説を反對に考へれば分るから茲に畧するが儒教に於て君子と小  
人とを比較對照して説いた所を見ると一層適切であるから之を擧げると  
孔子が

君子ハ周シテ比セズ小人ハ比シテ周セズ

即ち君子は道を以てする以上如何なる人とても親しむけれど小人は自己  
に利益ある人とのみ親しくして他を顧みない又

君子ノ過ハ日月ノ食ノ如シ小人ハ之レニ反ス

君子は人格完全であるけれど矢張均しく人間であるから萬全は期し得ら  
れ無い時として過失もある然し君子のことなれば故意に仕たので無くウ  
ツカリ仕たのであるから夫れと氣が付くと直ちに心を改め他人に關係あ  
れば謝罪は勿論其の善後策を盡すから一旦の過ちはあつても忽ち元の明  
朗たる心に立直り其の失敗は後日の戒ともなり君子の徳は益々發揚せら  
れる之れは恰も日食月食により一時其の光明を失ふても直に元の日月に  
立戻る如く實に公明正大なる心である之れに反して小人となれば常から  
自分の心が汚れ只自己の利益とか名譽とか體面とかに捉はれ義といふこ  
とを聊かも知らないから極めて負惜み強く心には自己の過失と知りつゝ  
も出来るだけ詭辯を弄して其の非を遂げんと努める之れが世を害し人を  
害するので孔子は

君子ハ義ニ喩リ小人ハ利ニ喩ル



と曰はれ君子は自己の利害を忘れて義の爲に盡し小人は義を忘れて利のみに努める此の又小人は學問財産の有無や職業年齢には少しも關係なく財産あり地位あり年配の人で不心得の小人のあることは屢々實驗する所で之れに依りても益々勅語徹底の必要を感じずる次第である

### 十 儒教は知行合一なり

凡そ學問をするといふことは人間の踐み行ふべき道を知る爲で知るといふのは之れを行ふ爲である儒教では知行合一といふて唯知つて居る斗りで無く必ず實行を要し其の行爲無き人は初から知らぬ人と認めて居る孔子の弟子の子貢が君子を問ふた時に孔子が

先ヅ其ノ言ヲ行フテ而シテ後之レニ從フ

と曰はれた即ち君子として世に立つものは口で言ふよりも先づ實行せよ

とのことである恐多くも教育勅語に仰せられることは皆實踐躬行のこと斗りであるから著者も斯く多辯を弄しつゝ、偕其の實行を顧みれば實に背汗萬斛であるが希くば將來讀者諸賢に追隨して之れが實踐に努めたいと思ふて居る

### 十一 儒教は近きより遠きに及ぼす

宗教は其の理論を第二に置き先以て神とか佛とかの威靈を強信せしめ其の信仰心の中へ教理を注ぎ込むのであるから第一神佛を信じない人には説いても効が無く又佛教の如きは中々容易に理解し得られない儒教は之に反し神佛に等しき天といふことがあるけれど教訓の出發點は天でなく手近な實在的の事から出發して疑はしい所聊もなく明白に進で結局天に歸納する之れを天の道と稱し孟子も

道ハ近キニ在リテ之レヲ遠キニ求ム

と曰はれた様に山間溪谷を駈けずり廻つて鶯の聲が仕ないから未だ春が来ないのかと心配せずとも手近な庭の梅の樹に蕾が一つでもあれば夫れが春の證據である神佛へ參るにしても忙しい家業を捨て態々遠方へ往てお百度を踏むの形式よりも自宅から遙拜して置いて親を慰め家業に勉強して税金を完納する之れが本統の信神である何程遠方の神や佛を拜んだり祈つたとて手近の行ひが僥略では役に立たぬ假りに旅行するにしても一足飛びに目的地へは行けない船にも車にも乗らねばならぬ衣服其の他の準備も要る其の前には旅費の金儲けもせねばならぬ如何に經世濟民でも一足飛びに治國平天下は出来ない人間修養の道にも夫々順序があつて大學にも

古ノ明德ヲ天下ニ明ラカニセント欲スルモノハ先ヅ其ノ國ヲ治ム其

ノ國ヲ始メント欲スル者ハ先ヅ其ノ家ヲ齊フ其ノ家ヲ齊ヘント欲スル者ハ先ヅ其ノ身ヲ修ム其ノ身ヲ修メント欲スル者ハ先ヅ其ノ心ヲ正フス其ノ心ヲ正フセント欲スル者ハ先ヅ其ノ意ヲ誠ニス其ノ意ヲ誠ニセント欲スル者ハ先ヅ其ノ知ヲ致ス知ヲ致スハ物ニ格ルニ在リとある如く手近き所から順序を追ふて進歩するのである

## 十二 儒教は壓制的のものにあらず

儒教は上の者が下の者を壓制する教であるといふ者がある之れも大なる間違である素より儒教では下に對し壓制を許さないのみならず寧ろ上たる人の心得を八ヶ間敷く言ふて上たる人さへ善であれば下の者は教へずとも自然に善くなるといふ主義であるから儒教の小言をいふ相手は上になる程嚴しいのである昔魯の國の家老であつた季康子が孔子に政治の仕

方を問ふた孔子の答に

政ハ正也子帥フルニ正ヲ以テセバ孰レカ敢テ正シカラザラン  
即ち政治といふものは正しくせねばならぬ家老たる貴殿が正しい行ひを  
せられたら國民は自然正しくなります又季康子が世間に盜賊が多くて困  
ると曰ふたら孔子は

苟モ子ガ欲セザレバ之レヲ賞スト雖モ竊マズ

即ち家老たる貴殿が盜みを仕なければ褒美を遣はすといふても國民は盜  
みません又悪人は皆殺して善人斗りを残したら如何と問ふた時に

子政ヲ爲スニ焉ンゾ殺ヲ用キン子善ヲ欲シテ而シテ民善ナリ君子ノ

德ハ風小人ノ德ハ草也草之レニ風ヲ上フレバ必ズ偃ス

即ち世に悪人が出来るのは畢竟政治の仕方が悪いからである其の根本を  
改めずに悪人を殺したとて次から次に悪人が出来て際限が無いそれより

も貴殿が率先して善事を好まれたら國民は化せられて皆善人となります  
恰も風が草を偃し靡かす様なものであると答へた以上の例の如く上の者  
から模範を示さねばならぬといふ主義であるから下の者には從順にせよ  
と説いて居るけれど上の者に我儘を許すとは少しも言は無い故に昔支那  
の亂れた時孔子孟子が諸國を周遊したけれど皆國王とか高官の人達斗り  
に其の道を説いて善政を行ふ様勧めたので其の人達は又心の中では感心  
しても偕之れを實行するとなると自分の遊蕩氣分を抑制せねばならず又  
自分の欲望を満たすことが出来ないから採用せられず二人共不遇に終つ  
たのである今少し説明を加へると論語に孔子が

民ハ之レニ由ラシム可シ之レヲ知ラシム可ラズ

と曰はれたことを以て政治は一切人民に得心させず上の者が勝手に規則  
を作り強制する様に思ふ人がある之れも大なる誤りである其の誤解の原

因は全く読み方から起つたもので漢文の可<sub>レ</sub>使とか不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>使とかを命令詞と解するからである今日我が國の文章で『爲すべし』とは爲せよとの命令で多少共強制の意味があるから公園で『花採る可からず』は採りてはならぬ命令であるが本來支那の文章では一概に之れを強制の命令とはなつて居らない當時の支那民衆は教育が普及せなかつたのと何分多數の人民に一々得心さして夫から規則を作るなど出来ることでは無い必ず先達の役人が規則を作り之れに従はず様にせねばならぬのは當然である故此の可<sub>レ</sub>しは命令でなく即ち由らしむることが出来ても豫め知らすことが出来ないといふことである他の例を以て今一應解説すれば書經に

天ノ作セル孽ハ猶ホ違ク可シ自ラ作セル孽ハ道ル可カラズ

といふことがある之れは天から與へられたる災であれば免れる方法もあるが自分の招いた災難は逃れることが出来ないといふことで即ち地震と

か洪水とかは方法宜しきを得れば免れることが出来るが自分で作つた罪や病氣は免れることが出来ないといふのである若し之れを論者の如く命令強制に解すると天災の時には必ず逃げよとなるが何もソナ時には命令無くとも皆逃げる又自分の作つた病氣の時に逃げたら悪いと強制せずともドウして逃げる事が出来るか夫れ程分り切つたことを彼是いふのは全く文字を知らないからである尙今一つ念の爲申すべきは此の由らしむ可し知らしむ可らずは今日の我が國の事として考へたらドウカといふに政府の方針が新聞に出て假令ひ片鱗にもせよ施政方針が窺はれ又多數の國民から代議士を出してある以上昔より進歩したことは勿論であるけれど之れを實質上から云へば國民が豫め代議士と相談するので無く其の實代議士が自分の心で勝手に極めて昔しは大臣の獨斷であつたのを其の相談の範圍を廣めたといふだけで大多數の國民としては矢張由らしむ可

しに近い尤も之れは複雑にして且迅速を貴び或る場合は秘密を要する政治の事故之れ以上には仕方がない全く當然のことではあるが孔子の時代から見ると若干進んだと云ふだけで實質の點から申せば五十歩百歩たることは免れない斯様に詮じ詰めるといふと儒教が壓制的であるといふことは全然根據のないことになる尤も我が國に於ける武家政治時代に教育上には儒教を採用して人民の從順を要求しながら一方に於て苛斂誅求の壓制を施した例はあるけれどもそれは當時の爲政者が自己に都合の好い勝手なことをしたのであつて儒教の精神に背いた行である尙又或る書物に朝鮮人の是れまで進歩せざりしは主として上に屈從せよと説いた儒教主義の政治が災いしたものととして如何にも不都合な害のある教の様に書いてある今此の書名も著者の名も忘れたけれど此の著者は恐らく論語の一章も讀んだことの無い人であろう此の如く誤解者が一般世人時としては

教育者の中にもあるのは實に我が國民教育上慨歎に堪へざる次第である

### 十三 儒教は禮を重んじ謙讓を貴ぶ

禮のことは第七項に略説したが儒教は此の禮を格段に尊重するから茲に之れを再説せんに人間には兎角名譽と利益と感情に依り融和を害するところが多いのでそれを避ける爲豫め禮を以て其の接際を圓滑にせねばならぬ其の禮には輕重大小色々あるけれども正心誠意を以てすべきは皆同一である

儒教は己れを修めて人を治める教であるから己れを修めるのが倫理で人を治めるのが政治である之れを國家社會の實際に施す時には禮と云ひ何事でも禮の車に乗せねばならず無禮の車に乗せたら必ず顛覆する一切の政治道德も社會道德も詮じ詰めると皆禮の一字になる孔子も

君子ハ博ク文ヲ學ビ之レヲ約スルニ禮ヲ以テセバ亦以テ畔カザルベ  
キカ

即ち博く學びたる所を要約して道の規矩たる禮を以て之れを實踐躬行す  
べきことを説かれ又顏淵の問には

己レニ克チテ禮ニ復ルヲ仁ト爲ス

と答へられ我慾を抑制して天地の儀則たる禮に復歸するのが仁を行ふ道  
であるといふことである隨て禮の一端たる謙讓の徳は迎合とか退嬰とか  
の様な卑劣なもので無く自己を犠牲にして他人を尊重する美はしき義の  
發露であつて勅語にも

億兆心ヲ一ニシテ

と仰せられ此の多數の國民が忠君愛國の點では心が一であつても其の主  
義主張に至りては夫々多少の相違は免れぬ以上之れを統一するには是非

共相互譲り合をせねばならぬから此の勅語の御精神には此の譲り合をせ  
よとの御事が無論含まれて居るものと拜察すべきである然るに近來歐化  
主義の流行により人權思想が横溢し漫りに官憲を誹議するのを愛國の先  
見ある如く誤解し又長者を尊敬せざることが一種の誇りの如く思ふ者が  
往々見受けられる彼の電車の中で頽齡の老人が吊革に手頼り其の傍らに  
青年子女が腰掛に安座するなどは珍らしくない尤も權利觀念よりすれば  
當然のこと、云ひながら此の禮の廢たれたる爲に政治は困難となり社會  
は秩序を失ひ家庭は平和を缺ぎ積りく／＼て有形無形の損失は多大なもの  
で彼の近時流行の労働爭議も畢竟禮の廢たれたる爲と謂はねばならぬ

#### 十四 儒教は進歩的にして退嬰的にあらず

前項に述ぶる如く儒教は己を犠牲にして他を救ひ又謙讓を貴ぶから世人

は誤て進歩的の教でなく引込思案の退嬰を奨める教だと思ふ者がある之れも間違である今儒教が進歩的である證據を擧げて見ると大學に

湯の盤の銘に曰く苟も日に新たに日に新たに又日に新たに

といふことがある之れは昔湯王といふ天子が盤即ち行水の盥に自分の戒めとなる語を書き附けて此の水を以て身體の汚穢を洗ひ清める如く自分の邪心を洗ひ落し日々精神を新たにして進むといふことである又易經の中に

生々之レヲ易ト謂フ

とある此の易といふ字は日月を重ねたもので天地間に在る此の道といふものは日月の如く無窮にまで變らぬといふこと、日月の運行四時の轉換の如く何事も順環するといふこと、兩つの意味がある如く生々化育を遂げることは全く進歩である又孔子が川に臨みて

逝ク者ハ斯クノ如ク晝夜ヲ舍テズ

と曰はれ新陳代謝して人生を盛んにするは易の話と同じことである又

故きを温ねて新しきを知れば以て師と爲るべし

とは昔の古いことを墨守せよといふのでなく今迄在り來りの事を基礎として新規の工風をせよ古い事斗りに満足するなといふ意味である兎に角儒教に於ける聖人の教は物に凝滞せず時勢に従ふて推し移るのであるが悉く前に述べた經なり常なり即ち天地の道に則り従ふのであつて只無暗に俗世界に盲従せよといふのでは無い仁義を忘れず他を害せずして己れを益し又他を益して己れを益する進歩向上の教である

## 十五 儒教は包容力大にして人種の偏見無し

儒教は五常五倫を基礎とした四海兄弟主義であるから何國の人でも又如

何なる宗教を奉じて居る人にも天地の公道を以て交らんとする極めて公平寛容な教であるから西洋の歴史にある如き理由無く異教徒を壓迫したり征伐したり時として虐殺するといふ様なことは絶対に無い尤も支那は自ら中國と稱し四隣の國を夷狄と稱したけれど當時の支那と他國との文化の比較状態は今日世界各國の状態とは全然違ふて居る當時の支那は文化大いに開け形式に於ても禮儀三百威儀三千などいふ位であるに係らず四隣の各國は文化低く人倫五常の道行はれず全く未開の状態であつたから自然支那人自ら高尚に構へて居つたのに違ひないがサリトテ其の國に對し壓迫もせず侵掠もしない常に相當の禮を以て遇して居た中國といふも其の國の位置が中央であるからで日本でも朝鮮臺灣に對して内地と稱するのと同様元は排他的の精神から出た名稱では無かつたけれど近代になつて此優越感が他を蔑視する様に悪用せられた爲である然し之れ

は儒教の主義に反したもので寧ろ近代儒教を輕視するより起つたものである又此の優越感に就ては歐米人の方が尙一層甚だしい様で聞く所によると一等船客は二等三等の者を劣視し行動を共にしないといふ今日我國の文化と歐米の文化と比較したら精神文化は遙かに我れが上等であるのに何もかも混合して歐米より我が國を劣等視して居るそれを又我が國の學者と稱する人が彼れを先進國として尊敬し自ら侮つて居るといふのは實になさけないことである

儒教の文化主義といふのは今の文化の様に物質の優良なるを稱するのではなく物質よりも寧ろ精神的優良を尊重したから四夷の物質の貧弱を侮つたのでなく第一忠孝の道が行はれず禮儀は整はず男女の道が正しからず等風儀甚だ賤しいから之れに對等の交際をすれば勢ひ支那本國の道義を紊亂し治安を妨害するから彼等來朝の時には相當の禮を以て待遇は仕て



も自然親密を缺くことは已むを得ない是れ等を考へると今日の世界各国の状態を以て昔の支那の國際狀勢を論ずるのは大なる誤りである只茲に遠交近攻の策といふて遠い國には親しく近い國を壓迫するといふこと古來支那人が能く行ふ所であるが之れも支那の政事家が仁義の主義では緩漫であるから覇道に依りて功を收める爲勝手に極めたこと儒教としては孟子が梁之惠王に言ふた如く

王何ゾ必ズシモ利ヲ曰ハン亦仁義アルノミ

の精神で何處までも王道を以てし遠交近攻などの權謀術策は大なる禁物である」以上は國際間のことであるが個人同士としても無暗に他人を排斥せず其の人の言行が儒教の主義精神に合致して居りさへすれば學問の有無は勿論人種職業貧富貴賤に拘はらず誰でも彼でも我が黨の士として敬重するの主義である孔子の弟子の子夏の言に

賢ヲ賢トシテ色ニ易ヘヨ父母ニ事ヘテ能ク其ノ力ヲ竭クシ君ニ事ヘテ能ク其ノ身ヲ致シ朋友ト交リ言フテ信有ラバ未ダ學ビズト曰フト  
雖モ吾レハ必ズ之レヲ學ビタリト謂ハン

即ち學問は實行の爲めにするのであるから既に實行の人たる上は儒教を學んだことが無くとも其の人を學者と稱して差支が無いといふことで其の包容力の大きなること世界に於て是れ程廣大至正な教は絶対に無い全く世界の公教とも稱すべく夫れであるから恐多き勅語を謹解敷演し奉ることが出来るのである又同じ弟子である司馬牛といふ人が他人は皆兄弟があるのに自分獨り無いのは心淋しいと歎息した時同じ弟子の子夏が

商之レヲ聞ク死生命アリ富貴天ニ在リ君子敬シテ失フコト無ク人ト  
恭ニシテ禮有ラバ四海ノ内皆兄弟ナリ君子何ゾ兄弟無キコトヲ患ヘ  
ンヤ

と言ふた此の慰藉の詞の中に寛大包容の精神が溢れて居る即ち教育勅語に

之レヲ中外ニ施シテ悖ラズ

と仰られ朝鮮人臺灣人に對しても一視同仁御愛撫なされるは勿論如何なる外國人でも決して粗略に仕ないのは我國古來の美風であつて全く儒教の精神に一致して居る

## 十六 儒教は文武の雙全を希望す

儒教は唯書物の上のこと斗りを説くのではなく之を實地に行ふ學問であるから文事だけを偏重する様なことは無い其の實例を申せば孔子は魯の定公に仕へ農商務大臣から司法大臣に進んだ其の頃支那の各諸侯互に覇を競ひ軋礫のあつたのは恰も現代の世界各國と少しも違はない其の時隣

國齊の景公と魯の定公が夾谷といふ所で會合をした尤も表面は何所までも平和會なれども心の内部は測られないソコで定公は孔子を連れて普通の供廻りて往かうとしたのを孔子は聽かない

文事有ル者ハ必ズ武備アリ請フ左右ノ司馬ヲ具ヘテ以テ從ハン

と曰はれた司馬とは軍事の長官であるから兵を率いて參加した處が其の席上で齊國の役人の指圖により卑陋下賤な者が出て藝をしたり音楽を奏したり仕たので孔子は諸侯の尊位に對する無禮の廉を申立て嚴刑に處したから齊の景公は大變に恐怖し歸つて其の臣に語るには魯の國では君子の道を以て其の君を輔けて居るのに汝等獨禮に違ふ夷狄の道を以てするのは不都合であるとして以前魯國から取つた土地を返還して申譯をして來たといふのは歴史上有名な話で如何に孔子の説が正當でも無力では貫徹出來無い之れ全く軍備の整ふたお蔭である斯様にして儒教は何事も中庸

を學び文武の雙全を希望するのである勅語に

一旦緩急アラバ義勇公ニ奉ジ

と仰せられる此の緩急の爲に平常から軍備を充實するので此の點も聖勅と儒教は同一である

### 十七

儒教は愉快なるものにして窮屈なる

ものにあらず

世間往々儒教は正しき教には相違無きも窮屈で少しも心の餘裕が無い終日苦蟲の様な顔を仕て居らねばならぬ教であると思ふ人がある之れは往々でなく或は十人が九人まで左様に考へて居るかも知らぬ所が之れも亦大なる誤解であるから説明を仕やう抑儒教は經世濟民といふ國家の大事業を目的とするから之れを大人君子の學と稱し極めて高尚な所から之れ

を信ずると同時に自然言行が正しくなるのは當り前で外見上左様に誤解せられるのであろう然し儒教に於ては左傾も悪いが右傾も悪い何處までも中庸でなければならぬといふ主義であるから何事でも皆其の中庸に引き付け一方へ偏せざる様に努める此の引き付けることを以て人心を束縛するものと早合點して聊かの寛容も無い様に思ふのである然し儒教の引き付けるのは無茶苦茶に引き付けるので無く何事も餘裕のある様にする論語にも

道ニ志シ徳ニ據リ仁ニ依リ藝ニ遊ブ

といふて如何に道に志しても餘り凝り固まつては窮屈になるから時々心を和らげ氣を慰むる爲音楽乗馬の如きことをするのも良いといふことで隨て酒を飲んでも歌を唄ふても中正を失はざれば無論差支が無い孔子も

酒ハ量無シ亂ニ及バズ

と曰ふて何程といふ分量は初から極め無い三杯で酔ふ人は三杯三合で足る人は三合と衛生上を顧慮して各人體質相應に飲めば夫れが全く中庸で愉快といふことを目的として禮義を紊し亂暴を仕ない程度にせよといふ之れは今の我々の家庭でも同様現世教の本尊たる孔子として斯くあるのは當然である又歌謠音樂の方は儒教の科目たる六藝の一として樂を教ふる如く人心の鬱結を散じて其の和悅を求める唯一の方法として之れを奨勵して居る尤も之れも鹿野に流れ淫猥に墮つる如きは無論悪いのは言はずとも明である或る時孔子の傍に弟子が數人侍座して居つたところ孔子が曰はれるに自分は汝等より年長ではあるけれど左様なことを氣にせず極遠慮のない思ふた儘の話を仕て見よとあつたから其の中の三人が説を吐いた夫れが皆平素研究して居る治國平天下の堅い話斗りであつた最後に曾點といふ人之れは弟子の曾參の父で他の三人よりも年が上である今

まで琴を弾じて居た其の人に孔子が又意見を問はれたから急に其の手を止めて『私は今の人等と少し考が違ひます』と曰ふた處が孔子は重ねて『夫は銘々の考であるから少しも差支が無い是非に』と求められたので曾點は

莫春ニハ春服既ニ成レリ冠者五六人童子六七人沂ニ浴シ舞雩ニ風ジ

テ咏ジテ歸ラン

と答へた即ち只今は春も末で氣候も好く幸い銘々の春の衣物も出來て居るから五六人の青年と六七人の小兒を連れて沂といふ川の傍で溫泉に浴し夫から舞雩といふ所へ行て風に吹かれて歌でも唄ふて歸つたら嘸ぞ面白いことであろうと曰ふたのである所が孔子は感心して論語の文に

夫子喟然トシテ歎ジテ曰ク吾レハ點ニ與セン

此の喟然といふは溜め息きのこととて其の位孔子の氣に入つてそれは好い

事じや自分は之れに賛成すると申された歌を唄ほうが遊ぼうが中庸を得た事であれば差支無いどころではなく寧ろ之れを奨励して居る位最も中和中庸を貴び前に君子の説明にあつた色は温を思ひてなければならぬから論者の所謂苦が蟲の顔などは大々的の禁物である

### 十八 儒教は正當なる富貴を望む

之れは前述第十四項と併讀を望むのである能く儒教は金持ちを嫌ひ貧乏を奨励する教の様に思ふ人がある之れは一見貧乏を褒めて居る様に見へる所から生じた誤解であるから分り易く説明を加へる即ち孔子が

疏食ヲ飯ヒ水ヲ飲ミ肱ヲ曲ゲテ之レヲ枕トス樂ミ亦其ノ中ニ在リ

と曰はれたのは貧亡が良いといふので無く心の持ち方さへ正しければ十分の生活を仕ても苦にはならぬといふこと又學者とか達人とか清貧

に安んずるといふのも此の心持をいふたのである又其の次ぎに

不義ニシテ富且ツ貴キハ我ニ於テ浮雲ノ如シ

とあつて縦令巨萬の富を持ち高位高官に上つても義に背いた行ひがあれば只表面立派なだけで何時如何なる罰を受くるやも知れず罰を受けなくとも世人の批評はどの様なものと寐ても起きても心配の絶間がない夫よりも貧乏暮して拘はぬ氣樂なのが一番嬉しいといふことで物質よりも精神を貴ぶ主義から出た所の不遇者に對する慰安である又孔子の弟子である顔回のことを

賢ナル哉回ヤ一簞ノ食一瓢ノ飲陋巷ニ在リ人其ノ憂ヒニ堪ヘズ回ヤ其ノ樂ヲ改メズ賢ナル哉回ヤ

といふて孔子が褒められた之れも貧乏を賞したので無く顔回が貧乏を苦にせず心を紊さずして能く道を守つて居ることを賞したのである又弟子

の子貢が

貪ニシテ諂フコト無ク富ミテ驕ルコト無キハ如何

と問ふたところ孔子が

可ナリ未ダ貧ニシテ樂ミ富ミテ禮ヲ好ム者ニ如カズ

即ち貧乏だからとて人に諂ふといふ卑劣なことをしたり金持ちだからとて人に對し偉らさうに無禮をする様なことの無いのは誠に結構ではあるが更に歩を進めて萬全を望むならば貧乏を忘れて道を樂み金持であつて禮を好む様にありたいと曰はれた此の二者共諂らはず驕らず丈けてはまだ貧富の觀念に捉はれて居るから思想が低い夫よりも貧を貧とせずして樂み富を鼻にかけずに禮を以て人に交るとなれば貧富を超越した眞の人たる行であるといふことである斯様な譯で道を貴ぶ爲貧乏であつても屈してはならぬと心を勵ますと共に不義の富貴は極端に排斥するけれど正

當な富貴は無論希望するので高官に上つたら悪いとか大金持ちになるのは罪惡だとかいふた事は一ツも無い其の證據には孔子自ら平民より起つて魯の國の大臣となり其の弟子も諸國の大名に仕へ立派な役人になつた又孔子の若い時には牧畜の役人となつて經營が甘く畜類が蕃息したといふから孔子も利殖といふことは上手であつた要するに義を忘れて利のみ走る所の利は嫌ふけれど道を履て行ふ利であれば少しも差支ない若し一圓で仕入れた品は必ず一圓で賣れよ一錢でも利を得てはならぬとすれば有無相通すべき商賣は全然出來ない隨て甲地に米が有り餘つても乙地には品切れとなり人間が餓死をせねばならぬことゝなる勅語にも

進ンデ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ

と仰せられ儒教は亦經世濟民を目的として居るのに左様な間違ふたことをいふ道理が無い孔子の弟子の子貢が政事は如何したら宜しいかと問ふ

た時孔子は

食ヲ足シ兵ヲ足シ民ハ之レヲ信ニス

と曰はれた即ち人間は食ふことが第一である又武備が無ければ安心が出来ないから倉廩實ちて武備修まり然る後教化が行はれ民が政を信じて離反しないといふことで食を足し兵を足しが政治の要點であれば先以て國を富さねばならぬ其の富ますには農工商業を旺んにするより外は無いから今日謂ふ實業獎勵は全く儒教の本旨である其の結果は澤山金を儲けて千億萬圓の長者になつても聊かも悪いことはない寧ろ人間の進歩向上として之れを獎勵するのは彼の階級制度を肯定認識する上にも顯はれて居る故澁澤子爵が論語を商業上に應用して多大の貢獻ありしは衆知の事實である此の點も勅語と同一である

## 十九 結 論

教育勅語と儒教の關係に就ては以上に於て大體盡して居ると思ふが最後に於て極めて重大なことを一言附加して置く必要がある即ち世間儒教に反對する人々が支那に於ける禪讓放伐は我が國體に背くといふて此の一事を以て儒教の全部を排斥せんとする傾がある然し此の辯解は極めて易々たるものである第一禪讓の方は我が國體に背くは勿論であるが支那でも太古にあつた斗りて四千年來一度も行はれて居らぬ之れは別として第二の放伐の方之れが大問題である然し縱令支那の事としても苟も忠君を尊重する孔子として

君君たらずと雖も臣以て臣たらざる可らず

といふ點と矛盾の嫌がある如く絶對無條件に賛成した譯では無い國民塗

炭の苦を救ふ爲め萬止むを得ず承認したことは主君の紂王を討たんとする周の武士を諫めた伯夷を以て聖人と稱し又武王の近臣が伯夷を斬らんとした時顧問官たる太公望呂尙が義士であるといふて之れを救ふたことからでも明らかである隨て孔子も此の事は少しも獎勵は仕ない其の證據には孔子の時代周の王室徳衰へ統治上無力で諸侯の方が強かつたから各地周遊の際諸侯の有力者を説いて周室を滅ぼす放伐をしたら利益であらうが一度も夫れを言はず不相變周室を尊崇して居つたのでも儒教の精神は明らかに認められる偕又我が國に於ては 皇室よりは臣民を子として御慈み遊ばされ臣民よりは親に對する孝の心を以て尊敬し奉るのであるから萬古渝らぬ至情といふものが存在して居る孔子が季康子に答へた如く上 皇室に於て御仁慈の徳風があるのに下民草に於て其の徳風に靡かぬものがあるうか此の君民一體の美德は到底言語文章では書き顯は

すことが出来ない若し今日反對論者の言の如く儒教の中に放伐の事があるから悪いといふのなら即ち 應神天皇の御宇王仁來朝の時第一番に

皇室から又は皇室に近き高官たちから此の反對論が出なければならぬ筈である然るに 用明天皇の御宇佛教渡來の時の如き佛教は國體に背

くといふて蘇我物部兩氏争鬪のことがあり又基督教に對しても極端なる排斥があつたに拘らず此の儒教に限り尊奉者斗りて一人も排斥の聲を揚げた者が無い又専門家たる儒者であつて 皇室に對し奉りて無禮を仕たり國家を呪ふたり仕た者は一人も無いのでも其の教が我が國體と吻合し尊き教であることが分るのである況んや今日では多年諸學者が研鑽且洗鍊せられたる結果我が國體と合致せざる所は棄て、善い所斗りを採り之れを神代より傳はる日本の國教と合致せしめた上は今更ら彼是論議するの必要なく我が國民としては第一に此の有難き教育勅語を遵奉し所謂



拳々服膺すべき本分があると共に之れを徹底すべく謹解敷衍するには唯一無二の儒教を以てするのが最も分り易く且當然のこと、信ずるのである。

尙今一つ念の爲め申すべきことがある世人の中には間々道德の談に重きを置かず『善い事と悪い事とは言ずとも分つて居る』との一言の下に排斥する者がある如何にも其の通りで必要の無い達人賢者も澤山にある然し多くの中には平生の言行が聊か氣になつて堅苦しい話を避ける爲めの遁辭にする人も無きにあらず夫れよりも寧ろ『道德修養に一向徹底しない』といふて歎息する人の方が眞の達人賢者か或は達人賢者たらんと心懸けて居る人たること明らかである之れに就ての感想を申せば勅語でも儒教でも又世俗の考としても善事と悪事との区分は極めて明白なものであるが借實際に臨むと其の善を善と出来ない其の惡を惡と出来ない場合

が澤山あつて總てのことは善惡の見分けに困るのでなくて幾微の間に於ける善惡の取捨に迷ふのである然るに教の上からは標準尺度は嚴格で一尺は何所までも一尺であつて九寸でも無ければ一尺一寸でも無い絶対に伸縮は許さない隨て其の増減は事に當りて極める丁度織物の縦絲は始終變らぬけれど横絲が一々異なる如く眞正の道德たる縦絲へ俗事の横絲を織り込んで其の調和を求めるので其の苦心が並大抵では無く我が國で適例となるのは平重盛のことである正道よりすれば父を威嚇するのは大の不幸であるが其の不幸を敢行して忠孝兩ツ共全ふした又支那では男女の區別が嚴重で嫂の身體に弟が觸れることは絶対に出来ない然るに一朝其の嫂が水に溺れんとするときは見殺しにせず之れを救ふのが道としてある斯く正經で禁じてあることでも其の時の事情によれば正經に背くのが却て正經の眞精神に合致する様なことを權道と稱して儒教も之れを認め

て居る只世間には理屈を設けて此の權道を濫用する者があるので弊害が生ずる彼の罪人に對して執行猶豫を與へることも正道から申せば間違ふて居るけれども權道的手段に依り却て正道を全ふすることゝなり實に結構なことである如此我々日常の出來事は善惡の判然たるか否かの鑑別よりも寧ろ其の取捨手加減を如何にすべきかに迷ふこと斗りであるから常に豫め道理と事實とを對照して能く研究して置く必要があるので複雑極る人事を只分つて居るの一言で済まされる譯がない斯くいふ余も今後は讀者諸賢に追隨して之れが研究と修養とに努めようと思ふて居る

(終り)

昭和十二年六月二十日 初版印刷  
 昭和十二年六月二十五日 初版發行  
 昭和十二年七月二十二日 改訂再版  
 昭和十二年七月二十七日 發行

定價金貳拾錢

著者兼 發行人 賀 島 秀 太 郎  
大阪市東淀川區十三東之町二丁目二十三番地

印刷人 井 下 精 一 郎  
大阪市西區阿波座中通二丁目四番地

印刷所 井 下 書 籍 印 刷 所  
大阪市西區阿波座中通二丁目四番地

大阪市東淀川區十三東之町二丁目二十三番地

發 行 所 弘 道 會

374  
614

終

